

12. モモ黒斑病菌の袋掛け後の果実感染（情報）			
[要約] モモ黒斑病菌は袋掛け後も袋内に侵入して果実に感染するので、袋掛け後の防除は重要である。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0271（内線 240）

[背景・ねらい]

袋掛け時のモモ幼果に黒斑病が少なくても、成熟果には多発する場合がある。そこで、病原菌が袋外から果実に感染するか否かを知る。

[成果の概要・特徴]

1. 発生圃場の成熟果には、袋掛けした果実でも径 1~2 mm、淡褐色の新しい病斑が認められる。
2. 室内での接種試験では、袋と果実が密着した部分で袋外から果実への感染が認められた（表 1）。
3. モモ袋の上にブドウ袋で二重被袋すると、成熟果の発病が少なかった（表 2）。
4. 袋掛け後に黒斑病に対する有効薬剤の散布回数を減らすと、成熟果の発病が多かった（表 3）。
5. 殺菌剤を散布した袋紙は、菌の貫通阻止効果が認められた。

以上の結果から、モモ黒斑病菌は袋掛け後も袋内に侵入して果実に感染すると考えられる。袋掛け後の殺菌剤散布は、この菌の侵入、感染にも有効であるので、袋掛け後の防除は重要である。

[成果の活用面・留意点]

1. 袋掛け後、梅雨時期には枝、葉の病勢が進展するので、袋とともに樹全体に丁寧に薬剤散布する。

[具体的データ]

表1 袋外からの接種が果実の発病に及ぼす影響^{a)}

袋の有無	接種の有無	供試果数	平均病斑数/果
有袋	有(接種後8日間静置)	7	27
	無(8日間静置)	5	0
無袋	有(接種後6日間静置)	5	50<(癒合して広範囲に褐変)

a) 果実成長第3期の果実を用いた。

表2 二重袋の期間と果実の発病(黒斑病発生圃場)

区	被袋期間 ^{a)}			供試果数	発病果率	発病度
	5/24	6/28	収穫			
A				89	3.4(%)	0.8
B				96	13.5	3.6
C				122	6.6	2.0
D				348	13.5	4.2
降雨	8日(111mm)	9日(79.5mm)				

a) モモ袋のみ、 モモ袋+ブドウ袋の二重袋

表3 袋掛け後の薬剤散布が果実の発病に及ぼす影響

開花～袋掛け ^{a)} までの有効薬剤散布回数	袋掛け～収穫までの有効薬剤散布回数	成熟果の発病果率(%)
7回	6回	19
7回	3回	33

a) 平成13年5月29日袋掛け。

[その他]

試験研究課題・事業名：モモ黒斑病の多発要因の解明と総合防除法の開発

予算区分：県単

研究期間：平成12～14年度

関連情報等：